

こころ豊かに生きる

～自然とともに育つ子どもをめざして～

渡辺 一徳*・吉永 誠吾*・鈴木 蓮一*・高並 靖子*・堀川 瑞江*
石川由里子*・大塚 桂子*・浅尾理恵子*・福島 香代*・岡本 卓也*
福田 満美*・松本 純代*・鈴木 麻子*・福富 由美*・合嶋 千夏*

Raising a Carefree Child in Nature

The Research Members of the Kindergarten Attached to Faculty of Education
Kumamoto University

Abstract

We have been engaged for four years in the researches of raising a carefree child in Nature, considering that a child can live a carefree life if we, who take care of it, properly help it live favorably influenced by Nature. As a result of the researches, we confirmed that child's various experiences in Nature encourage it to develop carefree mind and desire to face things, and more than that, the experiences have a power to improve protectors' attitude to child and the way home should be.

In this paper, we summarized the researches, especially focusing the third year's theme: contrivances of how to encourage child to live in natural objects close by in order to cultivate the germ of interests and thinking faculty in it.

はじめに

本園では、「こころ豊かに生きる」～自然とともに育つ子どもをめざして～の研究主題に、4年間計画で研究を進めてきた。主題設定当時、社会状況の変化などを背景に教育界全体で「こころの教育」が叫ばれていた。そのような中で、私たちは「子どもたちが直接的具体的な体験を重ね、こころを揺さぶられるような経験をしながら、こころ豊かに生きてほしい」との願いをもった。「こころ豊かに生きる」ことのできる園生活を実現するための手掛かりとして、「自然とともに育つ子どもをめざして」という副主題を設定した。

本園は、市街地の中央に位置しながら、園内は豊かな自然に恵まれている。しかし、その自然の豊かさを保育の中に生かしきれていない状況が見られた。保育者が、身近な自然にかかわる子どもたちの姿に目を向け本園の自然の環境を生かしながら、子どもたちの自然とのかかわりを適切に援助することができれば、幼児も保育者も共により豊かなこころを育

むことができるのではないかと考えた。

研究方法

1. 研究の目的

- ①自然の環境にかかわり直接的具体的な体験を通して、「自然とともに育つ子ども」ひいては「こころ豊かな子ども」をめざす。
- ②自然に対する保育者の感性を高める。

2. 研究計画

- 平成10年度（1年次）「身近な自然の環境とかわる子どもの実態を捉える」
平成11～12年度（2～3年次）「好奇心や思考力の芽生えを育む身近な自然との出会わせ方を工夫する」
平成13年度（4年次）「自然とともに育つ子どもの姿を捉え、こころ豊かな子どもを育む指導計画を作成する。」

研究の経過

研究の1年目は、子どもの実態を捉えることから始めた。研究の成果として、子どもたちは、私たちが予想していた以上に、自然のかかわりを通していい

* 附属幼稚園研究同人

ろいろなことに気付き発見をし驚いたり感じたりしていることを捉えた。また、自然とかかわり生活することは、幼児の成長を促進する側面を多く持っていることを捉え、幼児にとって自然の環境が身近にあることの必要性を感じた。1年目の実践とその成果については、平成10年度の附属幼稚園の研究実践集にまとめている。

1年目の成果から、2年目は「自然にどのように出会わせていけばよいのか」という課題を引き出した。2年目は幼稚園教育要領の「好奇心や思考力の芽生え」という新しい視点を加え、「好奇心や思考力の芽生えを育む身近な自然の出会い方を工夫する」とした。

平成10年の12月に告示された幼稚園教育要領の領域「環境」の内容の取扱い(2)において「幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるように工夫すること。」が新しく盛り込まれていた。身近な自然の環境に出会わせることは幼児の心の安らぎや豊かな心情を育むだけでなく、好奇心や思考力、表現力の基礎を培うことになるという観点から、「こころ豊かに生きる」子どもとは、心情面の豊かさに知的な好奇心の充足もあわせて育つ子どもであると考えてに至った。この点を重視することから、当初3年だった計画を4年に延長した。本稿の研究の成果は、継続研究にした3年次の研究の取り組みを軸にまとめていく。

研究の内容

(平成12年度、3年次)

1. 保育実践

多様な体験を通して、気付きや発見、試行錯誤などが十分にできるような自然の環境の構成をした。また、幼児の発見や戸惑いにタイミングよく援助できるようにした。

子どもたちの姿から、好奇心や思考力の芽生えを育んでいると思われる場面を捉えて実践を記録し、出会わせ方の工夫について考察した。

2. 実践の分析

各クラスの実践を、◇好奇心や思考力の芽生えを育む環境との出会わせ方と、◆その年齢における発達の様子の2つの視点から分析し、実践を通して捉え

たことを一覧表にした。

各クラス毎に、保育実践を分析して一覧表を作成した結果から、環境の出会い方の工夫のポイントが見えてきた。また、それぞれの年齢の表を比較するなかで、その年齢における特徴的な発達の姿が捉えられた。ここでは紙面の都合上、実践のひとつを参考資料として載せている。(参考資料)表1

(平成13年度、4年次)

1. 自然とのかかわりを中心にした指導計画

自然の環境は様々な直接体験を通して、子どもたちの育ちを支える力があることを確かめ、年齢別に指導計画を作成した。(参考資料)表2

研究の成果

1. 出会わせ方の工夫のポイント、8

- ★五感を通した直接体験ができるように
- ★自分のものとして愛着がもてるように
- ★身近にかかわることができるように
- ★繰り返し十分にかかわることができるように
- ★比較することができるように
- ★いつもと違う角度で見ることができるよう
- ★調べたり確かめたりすることができるように
- ★気軽に自分の思いを言い合える友達関係になるように

この8つのポイントは、順序性があるという考えではなく、相互に絡みあっているものと考えている。そういう意味から番号ではなくマークで表現している。上から順に具体的な実践をまじえながら記述する。

★五感を通した直接体験ができるように

卒園間近になった年長児2人が、園のサクランボの木の下を通りながら、ふくらんだ芽に気付き話をしていた。

「菊組になった時に食べたよね」

「おいしかったね」

「今度、サクランボができる時は、私たちはもういないのよね」

以前にサクランボを食べた時のことが強く印象に残り、季節が再び巡ってきたことを実感している。このことから、「味わう」ということがこんなにも子どもの心に印象深く残るものだとすることを改めて実感した。

(参考資料) 表 1

<p><実践①> 「色水作り」～熟した実だけを取る姿を通して～ 3歳児 10月</p>
<p>同じ枝に、紫に熟している木の実と、まだ緑で固い木の実がなっている。T男は、その2種類を見わけて、「これ、だめ。これ、いい。これ、だめ。これ、いい。」とつぶやきながら、熟した実だけを取っている。</p> <p>《子どもの姿を通して捉えたこと》</p> <p>色水作りが好きなT男は、これまでも木の実をたくさん取って色水を作っていた。その経験のなかで、熟した紫の実だけが色が出ることを学んだのだと思われた。</p> <p>つぶやきながら熟した実だけを取っているT男から、自分で確かめている姿が読みとれた。本児なりにこれまでの経験を生かして思考力を働かせている姿だと捉えた。</p>

[平成12年度 3歳児の実践分析一覧表より抜粋] ◇環境との出会わせ方 ◆発達の姿

<実 践>		《子どもの姿を通して捉えたこと》
[幼児の活動]	[環境の構成の留意点]	[発達の姿]
<p>①「色水作り」</p> <p>10月</p> <p>熟した実だけを取る</p>	<p>◇見たり、触れたりする直接体験ができるように環境を構成する。</p> <p>◇十分に繰り返しかわることができるようにする。</p>	<p>◆色水ができる実とできない実を自分で確かめている。</p> <p>◆これまでの色水作りの経験を生かしている。</p>

(参考資料) 表 2

平成13年度作成「自然とのかかわりを中心とした指導計画」(試案)

4 幼児の指導計画

月	期の生活する姿	ね ら い	自然とのかかわりに関するねらい	経験してほしい内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の生活に慣れる ・友達と遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもち、喜んで園生活を送る。 ・幼稚園の生活の仕方が分かり安心して過ごす。 ・これまでの経験を生かして生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(3)園内の自然の環境の中で遊ぶ。 ・(3)自然の環境にかかわって遊ぶ楽しさに気づく。 ・(2)身近な自然の環境に触れる心地よさを感じる。 	<p>経験してほしい内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の自然の環境に興味をもち、花を見たり、集めたり、春の風の温かさを感じたり、小さな虫を捕ったりなどして遊ぶ。 ・ウナギやニワトリに餌をやったり、触れたりなどしながら安定感をもつ。 ・保育者と一緒に園庭を散策しながら、園内の環境に興味をもつ。 ・保育者と一緒になかかわりながら、身近な自然に触れ、動植物に興味をもつ。 ・進んで戸外で遊び、解放感や戸外の心地よさを感じる。 ・こいのぼりが泳ぐ様子や桶の花が落ちる様子を見て、風の気持ちよさを感じる。 ・土・砂・赤土・水などで遊びながら、感触を楽しむ。 ・年長児の小動物への餌作りをしている様子を見て、自分でもやってみようとする。 ・親子で夏休みの花の種を植え、発芽や自分の植えた植物の生長などを楽しみにする。
5				
6			<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期の自然にかかわって遊ぶことを楽しむ。 ・身近な夏の自然に興味をもちなかかわって遊ぶことを楽しむ。 ・飼育当番に興味をもつ。 ・身近な自然に興味や関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水や水たまりなどにかかわり、いろいろな遊びを楽しむ。 ・梅雨期の小動物に興味をもち、なかかわって遊ぶ。 ・砂や土などにかかわって遊ぶ。 ・雨や雷、虹や晴れ間の強い日差しなどの自然現象に興味をもつ。 ・いろいろな水遊びを通して、解放感を味わう。 ・土・砂・赤土・水など繰り返しなかかわりながら遊ぶ。 ・身近な動植物に興味をもち、なかかわったり、試したりする。 ・夏野菜の生長に興味をもち、触ったり、匂ったり、収穫したり、食べたりなどとする。 ・夏休み中の「親子飼育当番」を楽しみにし、年長児に教えてもらいながら餌作りや掃除をする。 ・草花や葉で色水を作ったり、虫捕りをしたりして自然とかわかわって遊ぶことを楽しむ。 ・年長児と一緒に飼育活動を楽しむ。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに興味をもつ。 			
8				
9				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伸び伸びと活動することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とかかわりあいながら自分の思いを出して遊ぶ。 ・ 戸外で体を十分に動かして、いろいろな遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋の自然物で遊ぶことを楽しむ。 ・ 身近な自然と十分に触れ合い、興味をもったり遊びに取り入れたりする。 ・ いろいろな行事に参加しながら、季節の変化を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリンピースやそら豆などを自分のポットに植え、親しみをもつて育てる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伸び伸びと活動することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種取りをしたり、数珠玉のネックレスを作ったりなど秋の自然物で遊ぶ。 ・ 捕った虫を飼ったり、保育室にいる小動物の世話に興味をもつて取り組んだりしながら生き物を飼うことや命の大切さを感じる ・ 園外保育に出かけ、戸外で過ごす気持ち良さや秋の風や空の青さなどを全身で感じる。 ・ サツマイモを収穫し、食べたりいろいろな遊びに使ったりする。 ・ 紅葉のそれぞれの色の違いに気づき、美しさを感じたり、落ち葉を集めて手触りや音を楽しんだりなどして自然と遊ぶ。 ・ 園内のいろいろな果物を収穫して、みんなで食べる。 ・ 球根類の水栽培をして、根の伸びる様子や発芽の様子などに興味をもつ。 ・ 親手で蒔き味の味根や苗を鉢に植え、栽培活動を楽しむ。 ・ 干し柿作りや餅つきなどの昔ながらの文化的行事に触れる。 ・ 遠足で集めた自然物を使って、クリスマスリース作りを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の自然に興味をもつ。 ・ 季節の変化を感じながら動植物に親しみの気持ちをもつてかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の自然に興味をもつ。 ・ 季節の変化を感じながら動植物に親しみの気持ちをもつてかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の自然に興味をもつ。 ・ 季節の変化を感じながら動植物に親しみの気持ちをもつてかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の自然に興味をもつ。 ・ 季節の変化を感じながら動植物に親しみの気持ちをもつてかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の合う友達とかかわりながら、自分の考えを出したり一緒に遊んだりする。 ・ 自分のやりたい遊びに熱中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の自然に興味をもつ。 ・ 季節の変化を感じながら動植物に親しみの気持ちをもつてかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露柱・氷・雪などの冬の自然現象に興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。 ・ 小動物の世話に興味をもち、自分なりにやってみようとする。 ・ 年長児と飼育活動に取り組み、小動物に興味や関心をもつ。 ・ 年長組での「カレー作り」などを楽しみにしながらジャガイモの種芋や人参の種を植える。 ・ 木の芽が出たり、つぼみがふくらんだりすることなどに気づき、季節の変化を感じる。 ・ 親子で栽培した花や球根の生長を喜ぶ。 ・ 3歳児と飼育活動に取り組みながら小動物に興味や関心をもつ。

★自分のものとして愛着がもてるように

一人一鉢の親子栽培では、どの年齢の子どもも自分の鉢に一生懸命に水をかけている。自分の栽培している鉢に愛着をもって世話をしている姿が見られる。「自分のもの」ということが、愛着や親しみを生むことになった。親しみがあがり、大切なものだからよく見ている。そのようなことが、様々なことに気付いたり発見したりしていくきっかけになった。

★身近にかかわることができるように

夏休みの終わりの除草の日、山の上には草地を残しておいた。そこがバッタやカマキリの住処となった。昆虫に興味がある子どもたちは、虫取りを十分に楽しんだ。

5歳児の保育室前に、田んぼを作った。トンボが水面すれすれに飛んで来て、卵を生む様子が見られた。水辺への遠足で蛙を見つけた5歳児が、園に持ち帰って田んぼに放すと梅雨の頃に蛙の声が聞こえてきた。

子どもたちは、身近にいつも見ることができから、好奇心をもってかかわる。そこに、保育者が関心をもち共に世話をしたので、子どもたちは対象物をより身近な存在として心を寄せていった。身近な場所だけでなく、保育者の援助を通して、自然の環境が身近な存在になることも確かめられた。

★繰り返し十分にかかわることができるように

4歳児が、花や葉をすりつぶしてして色水を作っていた。藤の葉をちぎって緑色の色水を葉に見立てたり、キンカンの葉を細かくちぎってすり鉢で擦って「ミカンの匂い、ミカンジュースだ。」と、いろいろな種類の葉で試したりして遊んでいた。

4歳児のクラスで、保育室で飼っていた十姉妹が続けて卵を生んだ。子どもたちは、雛が誕生して成長していく姿を繰り返して見ることができた。2回目になると「お母さんはどうして卵を温めるのかな。温かくなると、気持ちがいいから、赤ちゃんが生まれるのかな。」「赤ちゃん鳥は、しっぽが生えていないのに飛べるんだね。」などと、1回目よりもいろいろなことに気付いていた。

繰り返しかかわるなかで、いろいろな発見や疑問が生まれたり試行錯誤したりする姿がある。その過程のなかに、幼児期の思考力の芽ばえの育ちがあることを捉えた。繰り返しかかわることは、その時にその場で何度も繰り返して試すこともあれば、一定の時間を経て繰り返すこともある。

また、いろいろな種類があると、様々な試しが生まれる。十分に繰り返しかかわることを支える環境として、対象物の多様さの大事さも捉えられた。

★比較することができるように

1月の寒い日、裏庭の隅でバケツ中の水が凍っていた。そのことに気付いた5歳児が「明日も寒いからきっと凍るよ」と氷作りを始めた。「ここは凍ると思う。」「外は、凍ると思うけどこの中は凍るかな。」などと、それぞれに凍りそうな所を予想して容器を置いていた。翌日、どれくらい凍っているかどうか、それぞれの氷を比べあっていた。

保育者が子どもの行動を予測しながら子どもと一緒に環境の構成をしたが、子どもたちは好奇心を揺さぶられ、比べたり予想したり確かめたりすることができた。

★いつもと違う角度で見ることができるといえるように

4歳児のクラスで飼育していたカタツムリをガラスに這わせたところ、日頃見えないカタツムリの口が見えたので、いつもと違う世界に驚きの声があがっていた。また、ヤモリを捕まえた子が、飼育ケースの裏から偶然に覗き込むと、ヤモリの足がはっきり見えて驚いていた。

いつもと違う角度で違う世界を見ることは、子どもたちの好奇心を膨らませ、興味や関心を高めていく要因の一つだと捉えた。

★調べたり確かめたりすることができるように

テントウムシを見つけてきた3歳児が、絵本の棚からテントウムシが載っている図鑑を取り出し「ほかのも同じ、同じ」と保育者に伝えに来た。5歳児になると、自分達で採ってきた昆虫の飼育方を友達と一緒に図鑑で調べる子どもたちもいた。

子どもたちが、知りたいと思った時に情報を得ることのできる環境を構成していくことは、子どもたちの好奇心や思考力の芽ばえを育むことにつながった。

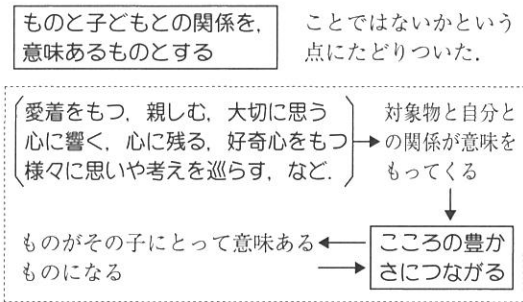
★自分の思いを言い合える友達関係になるように

自分の栽培している野菜を友達と一緒に見ていた5歳児のA男は、キュウリの葉の上にカマキリの子が乗っていることに気付く「B君、俺のキュウリにカマキリの赤ちゃんが乗ってる。俺のキュウリが気に入ったのかな。触るなよ。ここに住まわせるから」と話していた。そう言われて自分の鉢を見たB男は、

鉢の支柱にクモの巣がはっていることに気づき「僕にはクモが住んでる。」と言っていた。

自分の感じたことを思いのままに話し、相手もそのことを受け止めている。そのような友達関係が、興味や関心を広げ好奇心を高めていくことにつながっていくことがわかった。

以上のように好奇心や思考力の芽生えを育む、身近な自然との出会わせ方を追求すると、



2. 子どもの発達について

(3歳児)

- ・動いているものに興味をもつ。
- ・気付いたらすぐにやってみたくなる。
- ・次々にいろいろな物へ好奇心をもつ。
- ・自分なりに納得がいくまでやりたがる。ものや人や状況にこだわりをもつ。
- ・驚きや発見を保育者に伝えたがる。

- ・「同じ」や「違う」ということに興味をもつ。

(4歳児)

- ・「自分のもの」へのこだわりをもつ。
- ・自分の思いを中心にしながら動植物などにかかわる。
- ・いろいろな試し遊びをやってみる。
- ・納得するまで、繰り返し繰り返しやってみる。
- ・友達がしていることに関心を示す。模倣してやってみようとする。

(5歳児)

- ・対象物をよく観察し、いろいろなことに気付く。
- ・これまでの生活経験から、予想したり確かめたりして納得する。
- ・ひとつの対象物に興味や関心を持ち愛着をもって接する。
- ・図鑑や科学絵本などを、開いて見たり調べたりして自分の考えを確かめる。

- ・図鑑にのっていることでも、「また見てみよう」と繰り返し見たり試したりする。
- ・友達の話を聞きながら、興味や関心を広げている。
- ・友達と様々な気づきを出し合ったり、思ったことを言い合ったりしながら、新しい考えを見いだす。

3. 保護者の変容と児童の定着について

①保護者全員にとった選択式のアンケートから

保護者の実態を捉えるために、保護者全員にアンケートをとり調査をした。その結果として、園児の保護者として園生活の経験年数が長い人ほど、家庭で植物を栽培したり、生き物を飼ったりしている人が多いということがわかった。

- ・植物栽培では、年長の保護者になるほど、「幼稚園での親子栽培活動をして関心をもったから」がきっかけになったという場合が多い。実際に体験することを通して、子どもと共に保護者も変容している様子が伺える。
- ・小動物の飼育では、年少組ほど「家族がすきだから」「子どもの教育にとって良いと思うから」がきっかけになったという場合が多く、年長組になるにつれて「子どもが好きだから」が1番の理由になっていた。子どもの生き物への興味や関心の高まりを、保護者がしっかり支えている様子が伺える。(参考資料)表3

②年長組保護者にとった記述式のアンケートから

～自然への興味や関心の変容について～

さらに保護者の自然に対する意識の変容を探るため、園生活の影響が大きいと思われる年長児の保護者に、記述式のアンケートをとった。入園前と比べて動植物への興味や関心が、具体的にはどのように変わったのかを記述してもらった。

その結果から、この研究で実践してきたことが保護者並びに家庭生活全体が豊かな心情を育む上で、有効であったことが捉えられた。(参考資料)表4

③卒園児へのアンケートから

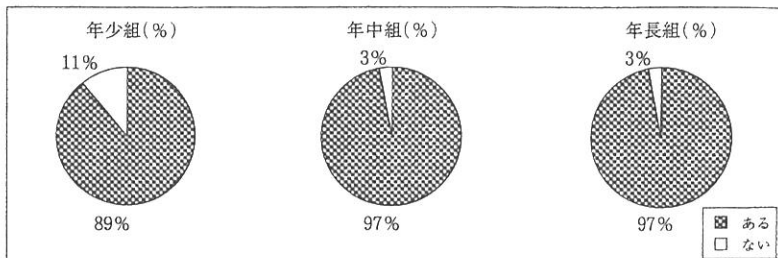
幼稚園時代に自然にかかわった経験が小学生になった時に、どのように児童の心に残っているのかを探るため、1年生から3年生までの全員にアンケートをとった。

その結果から、研究に取り組んだ年度の卒園児の子ども心の中に、幼稚園時代の思い出として、自然とかがわって過ごしたことが、印象深く残っていることが確かめられた。(参考資料)表5

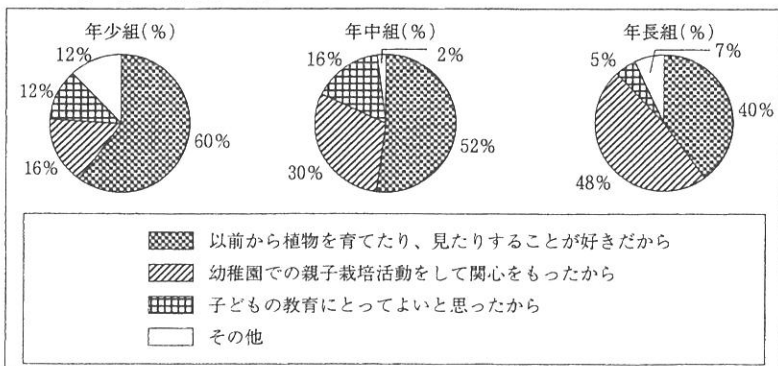
(参考資料) 表 3

全保護者アンケート集計結果 (平成12年度調査)

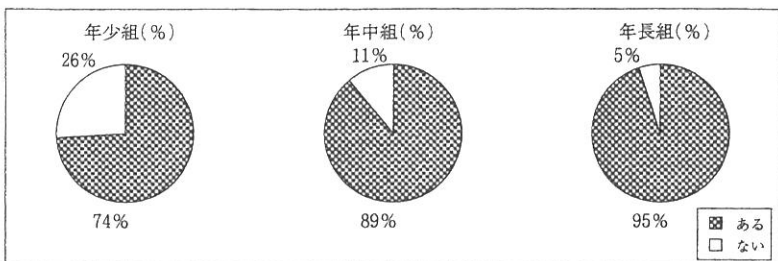
1 附属幼稚園に入園してから、ご家庭で何か植物栽培をしたことがありますか。



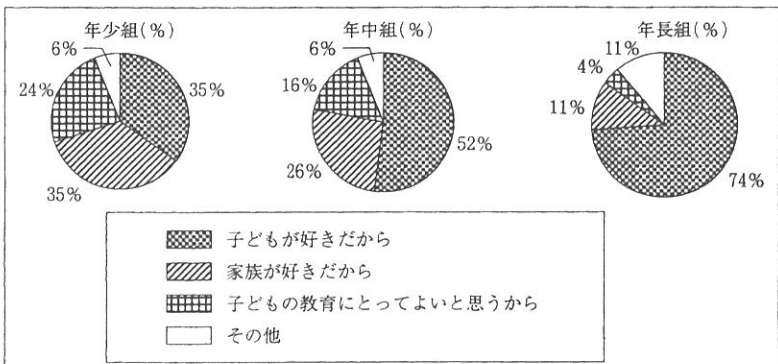
* 「ある」と答えた保護者の内訳



2 附属幼稚園に入園してから今までに生き物を家庭で飼ったことがありますか。



* 「ある」と答えた保護者の内訳



(参考資料) 表 4

[年長組の保護者にとって記述式のアンケートの集計結果から抜粋]

質問 1 入園前と比べて、草花や樹木、野菜など植物への興味関心は変わりましたか

イ. 変わった ・ ・ 32名 (53%)

ロ. 少し変わった ・ ・ 26名 (42%)

ハ. 変わらない ・ ・ 3名 (5%)

① (イとロの方) 具体的にどのように変わったのか教えてください。

- ・ 草花を自分で育ててみたいという気持ちはあったが、知識が追いつかずにいた。親子栽培での土作りが大変参考になり、家でもやってみたい気持ちになった。
- ・ 親子栽培を通して、案外簡単にできるものだと感じた。それからは、花の苗を売ってあるお店で、花や野菜などを注意して見るようになった。

② (ハの方) どうしてなのか教えてください。

- ・ 以前から、植物が大好きだから。今でも変わらずに好き。

※入園前と比べて高まったと答えたのは、95%、残りの5%の人も「以前から関心があったので、変わらない」との答えであるので、この2年、3年の園生活で植物への関心が高まっている。

質問 2. 入園前と比べて、保護者の方の動物への興味、関心は変わりましたか。

イ. 変わった ・ ・ 23名 (38%)

ロ. 少し変わった ・ ・ 29名 (47%)

ハ. 変わらない ・ ・ 9名 (15%)

① (イとロの方) 具体的にどのように変わったのか教えてください。

- ・ 子どもと一緒に幼虫を蝶まで育てたりしているうちに、全く見るのも嫌だった青虫が、かわいく思えるようになった。
- ・ 私自身は、虫が苦手だった。子どもが宝物のように大切に家に持って帰ってくる為一緒に世話をするうちに、今では、山に虫取りに行くようになった。

②（ハの方） どうしてなのか教えてください。

- ・ 以前から好きだから。
- ・ 動物が苦手でどうしようもない。すみません。
- ・ 動物を育てていく自信がないし、死に直面したくないので。
- ・ 動物は好きなのだが、家の中で飼うことができない。
- ・ 上の子が動物アレルギーのため。

※入園前と比べて、関心が高くなったと答えた方が85%だった。植物より少ないのは、動物は生理的に受け付けないことや、体質的なもの、住宅事情が左右していることが多かった。また、動物への関心は、子どもからの影響が1番大きかった。

質問3. 家庭生活の中で、自然に対しての意識の変化はありますか。

- イ. おおいにある・・・24名（39%）
- ロ. 少しある・・・34名（34%）
- ハ. ない・・・3名（5%）

①（イとロの方） 具体的にどのように変わったのか教えてください。

- ・ 遊園地も喜ぶが、遠くにわざわざ行かなくても、自然の中を走りまわり、いろいろな物を見て、疑問を感じたり、発見したりする時にこそ表情がとても輝いている気がする。
- ・ 休日には、季節を感じるができる場所へ出かけるようになった。車や乗り物を使わずに、徒歩や自転車が多くなり、季節の変わり目に敏感になったり、道端の草花へも目を向けるようになった。

②（ハの方） どうしてなのか教えてください。

- ・ 自然にかかわることを考えるゆとりがない。
- ・ 自然への意識はとても強い。休みの日は、できるだけ山や川に出かけるようにしている。それは、園生活の影響ではなく、わが家のライフスタイルだと思っている。

※おおいにある、少しあるを合わせると、95%の方が自然への関心を高めている。遠方に出かけなくても、身近な自然と触れ合い、四季の移り変わりを感じている親子の姿が見えてくる。生活の中にゆとりと潤いが生まれている様子も読み取れる。

(参考資料) 表 5

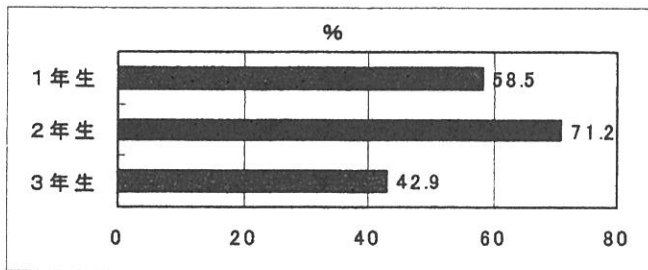
卒園児へのアンケート（追跡調査） 平成12年度調査
 () 年 氏名 _____ (男 , 女)

◆記入の仕方◆
 このアンケートでは、子どもの実態をありのまま把握したいという
 意図がありますので、記入方法は下記のとおりをお願いします。
 ① 保護者の方が下の質問を子どもにする。
 ② 子どもの言葉をそのまま保護者の方が書く。
 ③ ベスト5を書く。

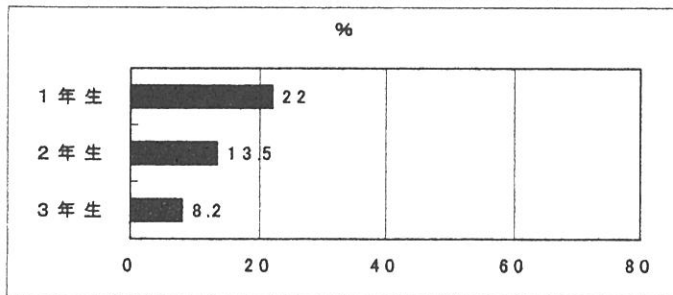
1. 「幼稚園の時のことで、何を思い出しますか。」
 (幼稚園生活の中で、子どもの印象に残っていることを探りたい)
 [_____]

卒園児追跡調査集計結果

- ◎「幼稚園の時のことで何を思い出しますか」という問いに
 ○自然というテーマに関わる回答を1つでも書いた子どもの割合



- 自然というテーマに関わる回答を1位にあげた子どもの割合



《1年生：平成11年度卒 2年生：平成10年度卒 3年生：平成9年度卒》

【集計結果から読みとれること】

- 私達が予想していた以上に、この研究への取り組みを始めた1年目、2年目の卒園児の思い出に自然に関わるものが多く出ていた。自然に関わる思い出の対象も3年生がウサギや楠に限られているのに対して、1、2年生の方は、いろいろな動物に対する思い出が表現されていた。
 ○思い出す順番に5項目書く方法をとったが、自然にかかわることを1番の思い出としてあげたのは、平成11年度の卒園児が最も多かった。

研究に取り組んだ年度の卒園児の子どもの中に、幼稚園時代の思い出として、自然とかかわって過ごしたことが、印象深く残っていることが確かめられた。

4. 保育者の変容について

研究の2年目に、「好奇心や思考力の芽生え」を研究の視点に加えた私たちは、幼稚園教育要領解説の中の「どうしてこうなっているのだろうと思考力を働かせる」という一文に着目した。自然にかかわるなかで、幼児に考えるきっかけをつくっていくことの大事さを感じ、出会わせ方を工夫するように努力してきた。しかし、研究の途中で、どこかで「こころの豊かさ」と「思考力の芽生え」をわけて考えていた。幼稚園生活全体を通して、幼児は思考力を働かせ知的発達が促されているということ、これまで十分に学び頭ではわかっているはずが、心にまで響くには至っていなかったことを感じた。「自然にかかわるなかで幼児はいろいろなことに気づき、発見し、感じ、考え、試したり工夫したり確かめたりしていく。自然にかかわるなかで、思考力と心情は絡み合い、溶け合いともに育っていく」そして（自然は、それだけに大きく子どものこころを豊かに育てる力を持っていること）を、確かなものとして感じられるようになったことが、私たち保育者の変容だと捉えている。

ま と め

- (1) 自然の環境は、様々な直接体験を通して子どもたちの育ちを支える力があることが確かめられた。
 - ①好奇心を育み育てることは、物にかかわろうとする意欲や自発性を育て、知的欲求を充足することにつながる。
 - ②思考力の芽生えは、自然にかかわり、試行錯誤するなかで育つ。
 - ③好奇心や思考力の芽生えの育ちは、対象に親しんだり、愛情をそそいだり、相手のことを考えて行動したりすることなどにつながり心情面の育ちとなる。
- (2) 豊かな自然の環境の中で、いろいろな自然にかかわる活動を通して、幼児の心情豊かで自発的な側面が育っていく。
 - ①友達とのかかわりが増え、仲間関係が豊かにな

ると、疑問や知っていることなどを伝え合い、解決しようとする意欲や態度が育ち、好奇心や思考力の芽生えを培うことになる。

- ②自然の環境とのかかわりが増すにつれ、保護者の子育て観や家庭生活にも変化をもたらす。
 - ③園で自然にかかわった経験が、卒園児のこころに印象深く残り、思い出として定着していた。
- (3) 計画的な環境の構成と柔軟なかかわりを学ぶことができた。保育者自身の変容につながった。
 - (4) 自然とのかかわりを中心にした指導計画を作成したことは、日々の園生活の子どもと自然とのかかわりを計画的に実践することにつながった。

今後の課題

これまで捉えられたことをさらに深めてより豊かな自然との出会わせ方を求めていきたい。試案として作成した「自然とのかかわりを中心とした指導計画」を実践検証し、本園の教育課程に取り込む。

おわりに

保育者が自然の環境を生かし、子どもたちの自然のかかわりを的確に援助することができれば、より豊かなこころを育むことができるのではないかと考えて始めた研究だった。この研究を通して、私たちは自然の大きさに改めて気づき、研究の成果から多くのことを学んだ。季節の移り変わりや変化に気づき、自然に生かされていることを感じながら、子どもたちと自然とともに過ごしていきたい。

参考文献

- 文部省「幼稚園教育要領」1998年
文部省「幼稚園教育要領解説」1999年
波多野諠余夫・稲垣加世子「知的好奇心」1973年、中央公論社
稲垣加世子・波多野諠余夫「人はいかに学ぶか」1989年、中央公論社
秋田喜代美「知を育てる保育」2000年、ひかりのくに
鯨岡峻・鯨岡和子「保育を支える発達心理学」2001年、ミネルヴァ書房